

# 虹の架橋

## 今月の題字 林 剛史さん

(東京都練馬区)

東京大学出身で文部科学省に勤務している林さんは大間々町3丁目の生まれ。大間々が大好きな「三方良し」の会の仲間であり、みどり市教育委員会のアドバイザーでもあります。

## 二百四十五年前の祇園幟発見 牛頭天王御祭禮

「三方良し」の会が調査を続けている高草木家の土蔵から、安永七年(一七七八)六月に書かれた『牛頭天王御祭禮』という幟が発見されました。牛頭天王(すずてんの)は祇園祭りの祭神です。

大間々の祇園祭りは寛永六年(一六二九)旧暦六月二十四日(新暦の八月二日)に京都八坂神社のご分霊を祀ったことが始まりで今年三百九十四年を迎えます。六年後の四百年祭へのカウントダウンが始まったこの時期に江戸時

代の大間々祇園の様子を伝える幟が発見されたのは意義深いことです。この力強い幟の字を揮毫した三井親和(みつよし)は江戸時代に深川で活躍した書家で、七十九歳の時に書いたと記されています。

この幟が発見された高草木家の土蔵は嘉永三年に建てられた大間々で最も古い土蔵のひとつです。高草木家は四百三十年前に大間々を開いた「大間々六人衆」のひとり、大間々の歴史を知る貴重な資料がまだまだたくさん眠っています。町の歴史に興味のある方、「売り手よし、買い手よし、世間よし」の「三方良し」の精神が大切と感じている方は是非「三方良し」の会にご入会下さい。



虹の架橋を検索で、インターネットからでもご覧いただけます。

小耳にはさんだ  
いい話  
(文責・靖)  
《336》

## 夢は「YOU・ME」



虹の架橋でも何度か紹介したことのある講演家の腰塚勇人さんが四冊目の本『今こそ大切にしたい共育』を出版しました。この本は腰塚さんが十一年前から毎月発行している「腰ちゃん通心『幸縁』』という新聞を基に加筆、編集したもので、共感、感動する内容ばかりです。

腰塚さんは大学卒業後、教師になるという夢を叶え、熱血先生の日々を送っていました。二〇〇二年にスキーで転倒して首の骨を折り、「一生寝たきりか

車椅子の生活になるでしょう」と医師から宣告されました。その絶望を希望に変え、生きる力を与えてくれたのが家族、医療スタッフ、学校の先生や生徒達でした。腰塚さんがケガから学んだのは「一人で生きていけない」「自分の命は自分だけのものではない」「助けてくれる人は必ずいる」ということでした。腰塚さんは二〇一〇年に「命の授業」の講演家としてのスタートを切りました。腰塚さんの講演に感動し、共感した人たちは次々に講演会を企画し、その回数は今年三月に二一六〇回を超えました。大間々でもながめ余興場や大間々中学校などで腰塚

さんの講演会を開催、感動の輪が広がりました。腰塚さんの「今こそ大切にしたい共育」の中に「夢はYOU・ME」という話が載っています。「どんな人の夢にも困難はつきものです。でも、その困難をともに乗り越えようとしてくれる仲間がいます。仲間がいればこそ、そこには感動があります。私は仲間がいたからこそ頑張れました。夢は今を生きる力です。夢があるから強くなれます。夢を一緒に語り、叶えられる仲間の存在は有難いです。ドリー夢(む)

メーカーとは、自分の可能性を信じ、夢を実現しようとする人、誰かの夢を知り応援しようとする人のこと。夢はYOU・MEです。この本のあとがきに、「腰ちゃん通心を出すキツカケをくださった四人の諸先輩方」の一人として「群馬県の松崎靖さん」と名前を載せていただき嬉しくなりました。「腰ちゃん通心」と「虹の架橋」はこれからも共に育って行きたいと思えました。

夏の宵本番近き太鼓の音  
毎晩七時を過ぎると五軒先の集会場から聞こえてくる子どもたちの祇園囃子の太鼓の音を聴くのが楽しみです。最初はバラバラだった太鼓もだんだん横笛や鉦や大太鼓に合っただけ、祭の本番が近いことが感じられ、自分も一緒に太鼓を叩いているように手が動いてしまします。我家でも父から私、私から娘や息子、娘から孫へと四代にわたって伝統の大間々の祇園囃子を十曲近くも覚えてきました。親を追い越し、いつの間にか子に追い越され、孫にも太鼓で負ける日が来るのが楽しみになってきました。



## 世界一小さな 定利屋 トイレ美術館

## 今月の写真《336》 『大間々祇園祭の賑わい』



足利屋の休憩コーナーでは、当店が所蔵している大間々祇園祭りの懐かしい写真三十点を展示いたします。(八月一日〜八月二十七日) 展示する写真は明治、大正、昭和、平成の祇園祭りに撮った写真。昭和三十年代に撮影された各町内の写真の中に写っている五十〜六十年前のご自分の姿と再会できるかもしれません。大間々の繁栄と悪疫退散を願って神明宮の宮司・大楽院勝尊をはじめ大間々祇園祭りはコレラの流行や戦争中でも途切れることはありませんでした。今年もコロナの悪疫退散を願ってみんなで伝統の祭りを楽しみましょう。

## 靖ちゃん日記

令和五年七月十六日(日)  
「あいつ今何してる？」という番組制作のためにテレビ朝日の取材がながめ余興場にきた。八月三十日放送予定の主役・梅沢富美男さんは六十数年前、両親の梅沢清・竹沢龍千代一座の子役としてながめの舞台に立ち、三十年前の八月の「梅沢富美男特別公演」では、改修前の冷房もない芝居小屋の客席に氷柱を立て、超満員の観客を魅了した。梅沢さんは、「あの時の黒子の会の人達は今何してる？」とテレビで呟いた。元アイドルの村重杏奈ちゃんが存分に来た。梅沢さんを「梅っち」と呼んでいた。黒子の会の我々に「昔の梅っちを知ってる？」と聞いてきた。「昔のことなら松崎の松っちに任せなさい」と、あの頃のことを話してやった。「えっ？梅っちってそんなスゴイ人だったんだ」と驚いていた。アンナちゃんに「松っち」とか「やっち」と呼んでもらいたかったが、「やっち」と言われそうだった。



第三百二十七号は令和五年九月一日(金)発行予定です。

靖ちゃんの似顔絵提供…ひさかさん